

長年の活動が評価され防犯栄誉銀章受賞 田代地区の防犯活動を続け 26 年

10 月 11 日に鹿児島県警察本部で全国地域安全運動鹿児島県大会が行われ、久保幸雄さんが防犯栄誉銀章を受賞されました。田代地区の地域安全モニターを平成 8 年から 26 年間続け、防犯活動に貢献されていることが評価され受賞。現在 86 歳の久保さんは「健康で過ごすためには、これからが勝負」と元気に答えました。



久保さんは鹿児島真向法体操会の会長を務め、町の生涯学習講座やときわ木真向会体操会で活動し、普及に力を入れています。

夫婦で三献の儀で杯を交わし、これまで以上に固い絆を結びました。結婚当時を振り返る新聞記事や記念品が贈られました。



錦江町合同金婚式に 13 組の夫婦が参加 夫婦で歩んできた 50 年の節目

結婚50年の節目を祝う錦江町合同金婚式が町総合交流センターで行われ、13組26名が参加しました。札幌冬季オリンピックや日中友好の証として中国からジャイアントパンダ贈呈などがあった1972年代。参加者を代表して中道義章さん夫婦が「今後も健康に気を付けて夫婦仲良く過ごしていきたい」と感謝を伝えました。

町のことや役場の仕事をクイズで学ぶ 「謎解きは庁舎の中で」開催

10 月 15 日、町内 6 小学校の児童たちの交流機会を設けようと、町の若手職員が企画した「謎解きは庁舎の中で」が開催されました。クイズに答えながら役場を巡るスタンプラリーで、参加した 1～4 年生 24 名が 5 班に分かれて挑戦。堀之内そよさんは「みんなで考えて正解できたのが嬉しかった」と笑顔で答えました。



町のことや役場の仕事がクイズとなっており、各課が問題を考えました。児童は 12 の出題場所で各 3 問のクイズに挑戦。

池田小の笹原蒼葉さんは「今までのイメージと違い、認知症の方は自分で考えてできることが多いとわかった」と話しました。



認知症サポーター養成講座を合同で実施 認知症を学び地域で支えよう

10月28日に認知症を地域で支えていくサポーター養成講座が行われ、池田小と宿利原小の 3～6 年生 12 名が参加しました。肝属郡医師会立病院の桜木希さんから認知症についての話や「南の星座」メンバーが認知症をテーマにした劇を披露。受講後に認知症サポーター認定の証としてオレンジリングが送られました。

神川小からは 6 年生 12 名、5 年生 6 名の児童が参加し、6 年生の小園綾奈さんはパティシエ、美容師、野球選手の 3 職種を選択。質問をした講師からアドバイスを受けていました。



未来の自分にワクワクしよう お仕事バイキング開催

9 月 27 日から 2 日間、町内 6 小学校の 5・6 年生 106 名を対象に将来の夢や仕事について考えるキャリア教育として「お仕事バイキング」が行われました。野球選手や客室乗務員など 14 職種の講師からそれぞれが聞いてみたい職種を選択しオンラインで交流。仕事内容や考え方など普段聞けない講師の話に、熱心に耳を傾けていました。

「認知症フレンドリー事業所」第 2 号登録 店内レジを全て「ゆっくりレジ」に

認知症になっても安心して生活できるよう町づくりを目指すためにふる里館を「認知症フレンドリー事業所」に登録しました。ふる里館では認知症や高齢者の方が慌てずに、支払いなどができるように店内全てのレジを「ゆっくりレジ」に変更し、急いでいる方は空いているレジへ移動してもらうような仕組みを整備。



登録事業所には町と包括連携協定を結んでいる県純心女子短期大学生が考案した 20 案の中から採用されたステッカーを交付。

振興祭の後には沿岸漁業の資源増殖を図るために体長 15 センチほどのヒラメ約 500 匹の放流も行われました。



資源増殖を図るためヒラメの放流も実施 振興祭で操業の安全と豊漁を祈願

10月21日、大根占地区振興会が第44回漁業振興祭を開催し、操業の安全と豊漁を祈願しました。県漁業組合大根占支所の多目的ドームで行われ、振興会役員など 11 名が参加。大根占地区振興会の染川金治会長は「燃料高騰などで漁業に対して厳しい状況が続いている。組合員の生活安定を目指していきたい」と話しました。